

# 琉球大学学術リポジトリ

保健学習の授業づくりを核にした，学校・家庭連携  
マネジメント：  
家庭との連携を通じた，教師チームによる保健学習  
の充実とその効果検証

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2018-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東江, 寛, Agarie, Hiroshi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/41618">http://hdl.handle.net/20.500.12000/41618</a>

## 保健学習の授業づくりを核にした、学校・家庭連携マネジメント

—家庭との連携を通じた、教師チームによる保健学習の充実とその効果検証—  
Collaborative Management Between School and Homes Based on Health Education  
Classes : Verification of Fulfilling and Effects of Health Education Classes by 'Teachers'  
Team in Collaborating with Homes

東江寛

Hiroshi AGARIE

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻・本部町立本部中学校

### 1. はじめに

#### (1) 学校教育における今日的課題

子ども達を取り巻く生活環境は急激に変化しており、彼らの育ちや暮らしを保障するためには克服すべき数多くの課題があるように思われる。更に、深刻な「貧困問題」が横たわる本県においては、大人・保護者自身の家庭教育・子育てに関する課題も大きい。「家庭教育推進計画」(沖縄県：2014)においては、「子育てについて保護者同士が交流する場が少ない」、「家庭教育に関心の低い保護者や困難を抱える保護者への取組みが不十分」といった現状が指摘されている。子どもが十全に育つためには、学校と家庭が連携して子育てに当たらなくてはならない。しかしながら、それが十分に機能しているわけではない。いま、この点に沖縄の学校の今日的課題があるのではないだろうか。家庭との連携に焦点を当てた授業をつくることができないうか、これが筆者の課題意識である。

#### (2) 保健学習の現状

筆者の担当するこれまでの保健学習の授業では、「雨降り保健」と揶揄される様に、どうしても実技学習が中心で保健学習は二の次になっていた。生徒の保健学習を受ける際の「えーっ保健？」といった態度に示される様に、生徒にとっては苦痛やつまらなさを感じさせるような内容であった。それは一方的に知識を教え込むだけの授業内容になっていたからだ。また照本ら(2015)は、中学生の時期は、学校生活や交友関係をめぐり悩み、親や家族との関係にまつわる葛藤、進路への不安などが思春期特有の不安定さによって表出されやすい時期だと捉えており、他者や自己との安定した関係を築けずに、周囲に対して否定的、攻撃的なかわりをしてしまうことも多いと指摘する。したがって、子どもが心に抱える問題を解決するために、何を必要としているのかを、保健学習の授業などにおいても、生活背景をふまえて具体的につかみ、そのうえで指導していく必要があると筆者は考える。

だが、苦悩を抱える子ども達の生活背景をふまえることは容易なことではない。子ども達は教師の知らない世界を持つ、それ自体独立した「個人」である。子どもの生活背景を読み解くことは、単独の教師ができることではない。ここに教師がチームとして取り組むことの積極的な意味がある。

### (3) 研究の目的

本研究の目的は、保健体育科及び養護教諭の教員で構成されたチーム(以下、教師チーム)で、保健学習の授業づくりを中心に協働しながら、家庭との連携を通じた保健学習を充実させ、その有効性および課題を明確にする。

## 2. 研究の方法

### (1) 対象

公立中学校 1 学年 3 学級(101 名)で、「心身の機能の発達と心の健康」を学習領域として取り上げる。また、2 学年・3 学年においても教師チームとして、保健学習の授業づくりを中心にしながら、家庭との連携を通じた実践を行う。

### (2) 時期

本研究の実施は、2017 年 4 月上旬～11 月下旬である。

### (3) 保健学習の充実に向けた取り組み

#### ① 授業の構想

一方的な知識を教え込むだけの授業展開ではなく、「心身の機能の発達と心の健康」における本単元では、生徒自ら思春期特有の不安定さを知り、自分と向き合い、他者を理解する姿勢を身に付けることが大切である。そこで、後述する「保護者インタビュー」を活かすことで、生徒の内面に迫り、より深まりのある保健学習ができるのではないかと考えた。また、照本(2015)は生徒一人ひとりが生きている生活現実に向け、彼らが発する声や「声」にならない思いを聴きとることのなかに、教育を成立させていこうとする姿勢があると述べている。我々が目指す保健学習においても、生徒の発する声や「声」にならない思いや悩みについて拾い上げ、生徒に寄り添える授業づくりを目指すことを、教師チームの共通理解とした。

#### ② 保健学習の授業の持ち方について

教師チームは保健体育科教諭(40 代男性：教員年数 14 年目/T1/筆者)・保健体育科教諭(20 代男性：教員年数 1 年目/T2)・養護教諭(教員年数：4 年目/T3)である。年度初めの教科会のなかで、保健体育科としての保健学習の授業の持ち方(保健学習の基本的な流れ・自分事として考える発問の工夫・家庭との連携・一方的に知識を教え込むだけの指導にならない)を確認し、共通認識のもと授業が行われるようにした。授業形態は通常の単学級ではなく、複数学級合同で授業を行った。尚、授業は全て 3 名のティームティーチングで行うことにした。

授業の構想や指導案・ワークシートの作成を T1 が行い、生徒の興味関心を引き出すために、T2 による教師自身の体験談や実技指導をとり入れて実施した。生徒達の声や考えを引き出した後に、専門的知識の説明を T3 が行うことで、生徒により確かな理解を促すことにつなげた。さらに、教師チームで役割分担を行い、動画やパワーポイント教材を作成し、生徒が理解しやすく、集中しやすい環境を整える事にも努めた。生徒自身が自分事として課題に迫れるような発問の仕方の工夫なども、教師チームが連携・相談し合い、練り合って授業に取り組んだ。

### ③ 養護教諭の役割について

本校における養護教諭は生徒の健康相談に限らず、心身の健康問題を陰で支える大切な存在である。担当教員と違う角度から生徒を理解することができ、特に心身の健康に課題のある生徒については、養護教諭のもつ専門性から担当教員よりも先にその課題に気付くことも多い。保健学習をより内容の濃い、深まりのある授業にし、より確かな力を生徒に身に付けさせるために、養護教諭が有する専門的知識や技術を活用した。

### ④ 授業の前後に行う教科会

週時程に教科会を位置づけるのではなく、T1が事前(1～2週間前)に授業の構想をT2・T3へその都度伝えることで、定期的に教科会を開催しなくても、お互いの空き時間を利用して話し合うことができた。また授業後はお互いのディスカッション(振り返り)を必ず行い、ワークシートの感想から生徒の学びや表情などの情報を共有し、次時の授業展開について、確認を行った。

### ⑤ 個別の支援体制について

授業を通して生徒からの「思春期の悩み」等の相談があれば応じられるように、教師チームで情報を共有し教育相談活動にも取り組んでいけるよう確認を行った。また、授業の様子やワークシートの感想から「気になる生徒」がいれば、個別に対応が行えるよう、対策チームを立ち上げ、組織として対応ができるようにした。

## (4) 効果の検証にあたって

### ① 生徒の振り返り(ワークシート)について

授業後の生徒の振り返り(ワークシート)について、教師チームによるディスカッションでの質的検証を行った。

### ② 抽出生徒について

ワークシートから抽出生徒の心理的状況を把握し、保健学習が充実しているかどうかを、教師チームで評価するとともに、更なる授業の充実、検証に向けて授業改善の検討を行った。

### ③ 教師チームでのディスカッションについて

実践全体(8ヶ月)直後の生徒振り返りをもとに、教師チームでのディスカッションによる質的検証を行った。

## 3. 実践の経過

### (1) 単元構成(心身の機能の発達と心の健康：6時間構成)

- ・ 1学期「生殖にかかわる機能の成熟」、「身体機能の発達」(3時間)
- ・ 2学期「心の発達」、「自己形成」、「欲求不満やストレスへの対処」(3時間)

### (2) 家庭との連携について

#### ① 保護者インタビュー項目

2学期の保健学習では、思春期の「心の変化」や「他者との関わり方」についての学習を行う。生徒自身が直接保護者の思春期時代の「心の変化」について、インタビュー(表1)し、その内容を2学期の授業に活かすことにした。

保護者インタビューの提出率は55%で約半数となっている。その内容は、保護者からの生の声である。つまり、保護者自身が思春期時代に葛藤し、悩んだことが素直に書かれており、教師チームでもその率直な書きぶりに驚いた。生徒は、そのインタビュー内容を今の自分自身と重ね合わせ、思春期の揺れ動く心の状態を理解し、自分自身の心の変化とどう向き合うか、また他者との関わり方についても学ぶ機会になるように授業に取り組んだ。

表1 保護者インタビュー項目

①中学校時代に勉強や部活動などで頑張ったことはありますか？
②中学校時代に人間関係(友人, 親, 教師)で悩んだこと, 苦しかったことはありますか？
③思春期を迎えている中学一年生にアドバイスや激励などをお願いします。

**② 保護者インタビューの回答例(表1：インタビュー項目②について)**

保護者インタビューは、「心の発達」、「自己形成」、「欲求不満やストレスへの対処」の授業において取り上げた。保護者から次のような声が寄せられている。

<p>○友人との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人との関係でなかなか自分が出せない時がありました。友達とケンカをしたり嫌な思いをさせてないかと悩んでいた時もありました。</li> <li>・人と関わるのが下手なため常に息苦しい思いをしていました。友達と呼べるのはほぼいない気がしていた。</li> </ul> <p>○教師との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前の学校と比べる先生が嫌で、その先生だけには反抗した。</li> <li>・友達は多く、友人関係で悩んだことはなかった。親にあまり相談するタイプではなかったのですが、先生に色々な悩みを聞いてもらっていました。とても厳しい先生方でしたが、親身になって接してもらった。</li> </ul> <p>○部活動での関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動に入ったのはいいけど陰口がすごくて、誰にも相談できず、苦しくて、好きだった部活をやめた。今ではすごく後悔しています。</li> <li>・部活の先輩の指導が厳しくて何度も泣きました。また、部活のチームメイト同士での仲間割れでよく悩んでいた。</li> <li>・中学になると、小学校の時とは少し違って先輩・後輩の関係が厳しくなった。</li> </ul> <p>○親との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よく親に反抗して、親を困らせてばかりいました。なんでも言い合える友達と過ごせる時間がとても楽しかった。</li> <li>・親に何も相談できませんでした。両親の仲が悪いのか良いのかケンカばかりしていたので、友人と一緒にいた時が楽しかったです。</li> <li>・なぜかイライラしていて、親に対して反抗的な態度をとってしまった。</li> </ul>
--

**(3) 保健学習の実際**

本単元を通して、今自分はどんな悩みを抱えているのかを見つめ、級友もそれぞれの悩みがあることを理解させる。前述したように、同時に保護者インタビューを実施することで、悩みや不安があるのは、自分一人ではないことに気づかせる。

#### 4. 研究結果(保健学習の充実に関する質的検証)

##### (1) 生徒のワークシート(感想)から

「心の健康」に関する課題を、自分事として考えることが、自分自身を見つめ直すうえで大切である。級友の意見を聴くことや保護者インタビューを活用することで、表2・表3にある「ひとりでためこまないで、友達に相談したい」や、「一人ひとり違うから不安、でもあせらなくて大丈夫」などの感想からもわかるように、思春期で起きた心と体の変化について、より深まりのある学習につながった。

表3 ワークシート(感想)

###### 【欲求不満やストレスへの対処】

- ・今のクラスには、あまりしゃべれる人や相談できる人がいない。部活の友達とはあまり関係が深くないし、自分勝手だから相談しにくい。中学生は今思春期の時期で、悩みや友達関係など、思い通りにいかないことがあるので、親や先生に相談ができるようにしたいと思いました。
- ・悩んだ時も、ひとりでためこまないで、友達に相談したいです。

表2 ワークシート(感想)

###### 【心の発達(2)】

- ・今日の授業を受けて、思春期であるが、身長や心の発達が早い人も遅い人もいることが分かった。反抗期の人もいるし、悩んでいる人もいます。どう接していくか考える授業(勉強)になりました。
- ・なぜか理由もないのにイライラすることが、6年生のときにあったけど、親から「ホルモンバランスが崩れるからだよ」って聞いて安心したのを覚えています。今日の授業を受けて、本当のことだと知って驚きました。これからは人との接し方を考えたいです。
- ・思春期や反抗期でイライラしたり、困ることがあったりするかも。だけど大人になるための準備で自分だけじゃないので、安心してしっかり話して解決すればいいことが分かった。一人ひとり違うから不安、でもあせらなくて大丈夫。

##### (2) 抽出生徒の感想から

「ドアをおもいっきりしめるし、今日の授業でみた動画がほとんどあてはまっています。みんなにいい聞いていません。たすけてください。」授業後のワークシート・感想を読み返しているとドキッとするような感想が書かれていた。普段生徒Aは授業中おとなしいタイプで、部活動にも積極的に参加している。教師にとってはごく普通の生徒である。しかし、これまで教師が気づかなかった出来事が、ワークシート用紙の裏面までぎっしりと書かれていたのである。

教師チームでさっそく生徒Aに対する今後の対応策について検討した。本人の困り感が実際どの程度なのか、家庭状況はどうなのかなどを個別の教育相談を行うことを最優先に考え話し合いを行った。また、学級担任にはこれまでの経緯を説明し、T1による個別の教育相談を実施した。その後、本人の了承を得てT3による専門的な視点からの教育相談も行った。

次時の単元「欲求不満やストレスへの対処」後の、生徒Aのワークシート・感想(表4)にもあるように、これまで親・教師・友人に相談できない、苦しんでいる状況が窺えた。今回の単元を通して、思春期の心の変化について学ぶことができたが、自分自身の悩みや不安について振り返り、どう解決していいか分からず、誰かに知ってほしいという思いが、ワークシートへの記述を通して表出したものと考えられる。

表4 「欲求不満やストレスへの対処」 生徒Aのワークシートから

質問1 「不安や悩みがあるとき、あなたはどんな行動をとりますか？」自分の考えを書きなさい。

ボールをうって人にあてたり、いらいらするなら、1人になるためににげてだーれもないところに、からだをひそめてからおちつかせる。このときに人がきたらいらいらがますから、それまでおちついて教室に入ったらまたいらいらして1人になる。このときはいらいらがのこっていたってことになる。そのいらいらがのびたら、5校時にねる。そうしておこられたら、いらいらするからムカつく。学校にいて部活で発散する。学校でできたいらいらは1人ぼっちになって、1人で外にいてからおちつかせる。趣味でつまようじを使ってから、くつの裏をみて石をとってきれいにするとスッキリとすこしなる。リビングから外を見て、ボーっとしておちつかせてからベッドに行く。

いつも、このくり返し。

T1から生徒Aと関わりのある各教諭に対して、状況の確認と今後の指導体制(見守り)について報告・相談を行った。また、生徒Aはもちろんのこと、他の生徒への目配りも大切に、相談等があれば常に情報を共有し、教師チームとして取り組んでいくことを確認した。

生徒Aはワークシートに記述することで、今まで相談できなかった「悩みや不安をぶつけることができた」と、授業後T1に打ち明けた。この様相について、教師チームでディスカッションをしたところ、生徒Aの「ストレス軽減」につながったのではないかと評価した。また相談できる大人(教師)が近くに居て安心感が持てたことを、その後の教育相談でも語っている。これをうけて、現在は多くの大人(教師)がしっかりと見守る体制づくりができ、安心して学校生活を送るようになった。

### (3) 実践全体(8ヶ月)直後の生徒の振り返り(ワークシート)

教師チームは、各学年に応じた内容の保護者インタビューを活用し、授業づくりを行った。前年度の保健学習とを比較するために、3年生(94名)を対象にアンケート調査を実施し、保健学習の振り返りを行った。

#### ① 授業体制について

授業体制についての生徒感想(表5)からもあるように、「先生一人で行う授業よりも、教師チームで行う授業スタイルが理解しやすい」、また「さまざまな考えや課題解決に向けてのアドバイスがもらえた」など、「わかりやすかった」と答えた生徒が39%いた。生徒の感想例は以下の通りである。

表5 授業体制について、生徒の振り返り(ワークシート)から

- ・今年度から3名の先生方に授業をしてもらっていますが、私は今年度の授業方法がいいと思います。理由は、一人の先生の意見ではなく、3名の先生の意見を聴くことで、考え方がとらわれず、いろいろなスタイルで授業を受けられるからです。また、新しく始まったグループ学習も、みんなの意見が聴けて、とても楽しいです。先生方も授業の準備や進行など、私達のために頑張ってくれているので、これからも授業を頑張っていきたいです。
- ・今年は3名の先生が、細かく教えてくれたり、スクリーンを使って授業をしてくれるので、とてもわかりやすいです。去年は、自分達で答えを教科書から探してたけど、今は先生から説明もあるのでわかりやすいし、おもしろいです。これからも、保健を頑張って健康についてもっと理解を深めたいです。

## ② 視聴覚教材やワークシートの工夫

学習内容を、生徒に分かりやすく説明するために、パワーポイントによる説明や内容にあった動画を活用し、自分の考えた事や他者の考えをまとめるためのワークシートの工夫を行った。その工夫の結果、「パワーポイントを使って実例や重要なところが、わかりやすく説明されていたので理解しやすかった。実際に自分の生活や考えと比べながら学ぶと、自分の生活の悪いところや改善点がみえてきておもしろかった」など、生徒の振り返り(表6)からもあるように、学習内容をより自分事として捉えることができ、実生活の改善点など具体的に知ることにつながったと答えた生徒が55%いた。生徒の感想例は以下の通りである。

表6 視聴覚教材やワークシートの工夫について、生徒の振り返り(ワークシート)から

- ・今年先生が直接おしえてくれるから、去年より保健がわかりやすい、去年は教科書から写して書くだけだったけど、それじゃあまりわからなかったです。今年先生に教えてもらいながらだからわかりやすい。
- ・保健の授業では、パワーポイントを使って実例や重要なところが、わりやすく説明されていたので理解しやすかった。実際に自分の生活や考えと比べながら学ぶと、自分の生活の悪いところや改善点がみえてきておもしろかった。また、意外な発見があったり、より良くしていくコツ等がわかり、興味がわいた。授業で習ったことを活用して、生活したり、実践してみようと思った。普段より良い生活習慣について意識したことがなかったけど、それを心がけながら生活してみることが健康にもつながるのだとわかった。

## ③ 課題点について

授業の課題点について「人数が多すぎて聞き取りにくい」、「おしゃべりが多い」、「質問がしづらい」、「各学級で学習した方が理解しやすい」と答えた生徒がおり、視聴覚室での床に座っての50分間の学習では、特に後半は集中力を欠きおしゃべりが増えた。学習環境については、今後の課題としてあがった。

## 5. 研究の成果と課題

### (1) 研究の成果

教師チームによる授業づくりでは、T1が授業2週間前に授業構想を協働者へ伝えることで、ゆとりをもって教材研究や教科会を行うことができた。1学期当初の授業では、「知識をどう教え込むのか」、「単語をどう覚えさせるのか」など、T1は以前の授業形式が拭えず悩む日が続いた。しかし、一人で悩みを抱え込むよりも、協働で授業づくりを行うことで、新しいアイデアが生まれた。以前は知識を教え込むだけの授業内容になっていたが、生徒の感想からも分かるように、「去年は、自分達で答えを教科書から探していたけど、今では先生から説明もあるのでわかりやすいし、おもしろいです」「実際に自分の生活や考えと比べながら学ぶと、自分の生活の悪いところや改善点がみえてきておもしろかった。授業で習ったことを活用して、生活したり、実践してみようと思った」などがあがった。教師チームでの授業開発によって、生徒が自分事として考える授業へと転換を図られたと考えられる。

また、グループ学習や視聴覚教材の工夫を行うことで「新しく始まったグループ学習も、みんなの意見が聴けて、とても楽しい」や「パワーポイントを使って実例



や重要なところが、わかりやすく説明されているので理解しやすかった」などの感想があり、以前の保健学習に比べ、肯定的な意見がうまれた。

教師チームでの授業により「気になる生徒」への声かけや、支援体制に向けた話し合いもスムーズに行うことができた。高橋(2015)は、困難を抱えている子ども達が語りだしたくなる場をつくる、信頼される大人になることが大切であると指摘している。生徒Aが今まで相談できなかった「悩みや不安をぶつけることができた」と授業後にT1に打ち明けたことは、生徒自身の苦悩や願いを語りだそうという勇気を引き出すきっかけになった。心身の健康に課題のある生徒に対して、養護教諭のもつ専門性を活かし、生徒と接することで、より深まりのある生徒理解につなげることができたと判断した。また、教師チームによるディスカッションは、生徒の学びの確認の場でもあるが、同時に教師自身の学びの確認の場にもなり、教師自身が成長につながったと実感している。

保護者インタビューを活用することで、いろんな保護者の思春期時代の話聞くことによって、自分自身の心の揺れが同じであることに気づくことができた。また級友の悩みや心の状態を知ることで、自分自身が抱えている不安や悩みが、特異なものではなく、人それぞれ違いがあることを学ぶ機会になった。

## (2) 研究の課題

保護者に授業を積極的に参観又は参加してもらうための工夫として、定期的に「保健体育科だより」を発行する予定だったが、継続して行うことができなかった。鈴木(2012)は、学級経営において重要や役割を果たす学級通信を生み出すためには、「子どもの生活の様子」や「授業の様子」を重視することが大切である。それによって、子どもの成長を具体的にとらえることができるようになり、子どもの自己肯定感を育むとともに、保護者からの信頼感を高めることにつながると述べている。そのことから、積極的に家庭へ学校の情報を発信し、授業の内容を知らせることで、保護者にこれまで以上に興味を持たせることができるのではないかと考えている。加えて、参観後の保護者の感想等を引き出せれば、より家庭と学校との連携がつながるのではないかと考える。積極的に家庭へ学校の情報を発信することも今後の課題である。

## 文献

- 中央教育審議会(2008).「新しい時代に求められる青少年教育の在り方(諮問)」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afielldfile/2009/02/04/080418.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afielldfile/2009/02/04/080418.pdf)(2016.1.24 閲覧)
- 鈴木健二(2012).「学級経営における学級通信の役割」『愛知教育大学教育創造開発機構紀要』2, pp.111.
- 沖縄県(2014). 沖縄県家庭教育支援推進計画「家～なれ～運動」 p.18.
- 森良一(2014).「小・中学校の先生のための『健康教育』実践ガイドブック」東洋館出版, p.32.
- 照本祥敬・加納昌美(2015).「生きづらさをこえるために」全生研常任委員会企画・竹内常一(編集代表)『生活指導と学級集団づくり中学校編』高文研, pp.27-28.
- 高橋英児(2015).「子どもの声を聴く」全生研常任委員会企画・竹内常一(編集代表)『生活指導と学級集団づくり中学校編』高文研, pp.94-95.